



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：ジュネーブでの国際会議をめぐる動き

ジュネーブでの国際会議をめぐる動き（その1）

4月6日、米国のケリー国務長官はロシアを訪問し、プーチン大統領、ラブロフ外相らとシリア問題について協議した。翌7日、ケリー国務長官とラブロフ外相は、シリア問題を協議する国際会議をジュネーブで開催すると発表した。ケリー国務長官は、早期に、可能であれば5月末までに同会議を開催したいと述べた。ケリー国務長官は、この国際会議は、2012年6月末にジュネーブで開催された「Action Group for Syria」会合に続くものであり、同会合で採決されたコミュニケを基礎とするとした。昨年の会合には、中国、仏国、ロシア、英国、米国、トルコ、イラク、クウェイト、カタールなどが参加して、シリアの将来について議論していた。ケリー国務長官は、次回会合には、シリア政府と反体制派が参加するよう働きかけるとした。

7万人以上が死亡したと推定されるシリア内戦では、政治的解決策を模索する仕組みがない。安保理は、ロシアと中国が拒否権を行使した結果、機能していない。そのため、反体制派を支援する「シリア友好国会合」など紛争当事者の一方を支援する会合は開催されている。しかし、米国、ロシア、中国などが参加して、より広い枠組みでシリア問題の解決策を協議した機会としては2012年6月末にジュネーブで開催された国際会議があるぐらいである。シリア問題の政治的解決を難しくしているもう一つの問題が、反体制派とシリア政府が交渉のテーブルについていないことである。米国とロシアが働きかければ、両者が次回会合に参加する可能性がある。両者が会合に参加すれば、結果は出ないとしても、これまでになかった当事者間の直接協議の場が生まれる。

オバマ大統領は、シリア問題について政治的解決策を模索している。そのためには、ロシアの協力が必要である。今回ロシアは、ジュネーブでの国際会議開催に同意した。同会議で、政治的な解決に向けて前向きな動きあるいは兆候がない場合、米国は、シリア問題の政治的な解決策の模索に見切りをつけるかもしれない。あるいは、ロシアにそう圧力をかけた可能性もある。

5月1日のワシントン・ポスト紙は、オバマ大統領は、ケリー国務長官をロシアに派遣した後、シリアの反体制派に対する武器支援について決断すると報道している。5月2日、

ヘーゲル国防長官は、シリア反体制派への武器支援も選択肢の一つだと述べている。米国は、シリアへの食料・医薬品援助や反体制派への非殺傷兵器の支援を決定しているが、まだ武器支援まで踏み込んでいない。

ジュネーブでの国際会議をめぐる動き（その2）

5月7日、ロシアと米国は、ジュネーブでシリア問題についての協議する国際会議の開催を提案した。ケリー国務長官は、できれば5月末に開催したい意向を表明していた。しかし、5月13日、米務省のサキ報道官は、同会議開催は6月はじめにずれこむとの見通しを表明し、まだ出席者も確定していない段階だと述べた。

シリア政府側の反応は慎重である。8日の米国・ロシア共同発表の前、ラブロフ外相は、シリアのムアッリム外相と電話会談し、国際会議構想を事前に説明したと報道されている。12日、アラブ連盟のアラビー事務総長は、シリア政府は会議参加者名簿を、ロシア側に渡したと発言した。しかし、14日、ゾアビ情報相は、参加するかを決めるには、会議についての情報が必要だと述べている。シリアの反体制派の反応は鈍い。5月11日、シリア国民連合のサブラ暫定議長は、国際会議に参加することは、シリア国民の利益にならないとの見方を表明した。13日、同議長は、会議参加は、トルコ、サウジ、カタールなどと協議をして決めると述べている。5月13日、英国のキャメロン首相と会談した米国のオバマ大統領は、共同記者会見で、ジュネーブでの国際会議が成功するかわからないが、この挑戦は努力する価値があると述べている。

シリア反体制派は、アサド政権打倒だけを主張してきたこともあるが、彼らが、国際会議参加に前向きでない背景には、反体制派の組織化の遅れがあると推定される。シリアの反体制派は、当初、シリア国民評議会が代表と目されたが内部調整ができなかった。2012年11月11日、米国と湾岸アラブ諸国の後押しを受けて「シリア国民連合」が発足したが、依然、反体制派の組織化は充分ではない。シリアの反体制派が、ジュネーブでの国際会議に参加しようとする場合、誰が参加するかをめぐる意見がまとまらない可能性がある。

（中島主席研究員）